

奨励賞・U40 建築賞

事務所・物販店舗・飲食店舗・レンタルスタジオ／北海道札幌市

狸上るビル

構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
敷地面積	249.89㎡
建築面積	218.63㎡
延べ面積	921.45㎡
竣工年	令和5年



設計担当者 千葉拓也

(株) 竹中工務店、北海道建築士会

共同設計者

高嶋一穂

(株) 竹中工務店

中澤秀太

(株) 竹中工務店



外観 自然光と街の賑わい引き込む小規模複合ビル



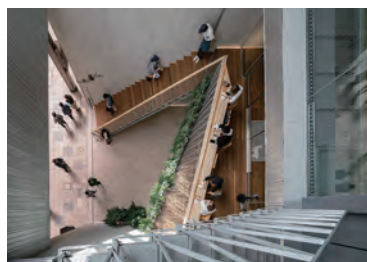
2階への階段、アーケードの上下空間を望むテラススペース、3階にガラススクリーンを設けて動線と視線を繋ぎ、建物とアーケードの繋がりを立体的に拡張した



商店街の人波と空の広がりと同時に望む新しい空間体験を生み出した2階テラススペース



左上) ラチス梁、フェローデッキ、打込型枠の木毛セメント板など、施工時の設えをそのまま表した事務室空間
右上) ラチス梁は照明下地を兼用、ダクトレス空調と合わせて設備機器を排したノイズレスな天井面を実現
右下) ノイズレスな天井面とライトシェルフにより自然光を室内へ引き込む



街の賑わいを引き込む商店街と連続した設え



壁面セットバックにより自然光と街の賑わいを引き込む、建物とアーケードとの新しい繋がりが方

選評

札幌の繁華商店街、狸小路の中の一區画が敷地である。前面道路はアーケードに覆われる歩行者専用道路である。立ち並ぶ商店はそれぞれアーケード下に2階分の顔を見せているが店舗前の広がりはない。この計画ではあえて壁面をセットバックして3層分の吹抜け空間を作り、アーケードを越えて太陽の光が降り注ぐ半屋外のポケットパークになった。このアーケード街ではあまり例のないユニークな試みである。この街を歩く人達には、ここだけは奥行きのある空間の奥に、3層分の顔が見える商店だ、と意識してもらえることになる。この種のアーケード商店街の新たなプロトタイプになるかもしれない。

この歩行空間は10m以上の幅があるゆったりとした道ではあるが、工事用資材の搬入は深夜に限られるという厳しい施工条件が設計上も大きな要素となったようである。仮設資材の搬出を軽減すると同時にコスト削減を兼ねて、コンクリート打設の際の型枠をそのまま内装の仕上材にしたり、またスラブの型枠であるデッキプレートやそれを支える、本来仮設のものであるトラス梁等をそのまま天井の仕上げ材にするという思い切った解決をしているのが、逆にこの作品の魅力になったと感じた。この考え方はビル内のあちこちにディテールからサインに至るまで行き渡っていて建築の完成度を大きく上げた。商業建築の秀作である。(可児才介)